

# バランス感覚の向上を介した療育のポジティブ感情喚起効果 -子どもの発達特性を考慮した検討-

○土屋さとみ1・小関俊祐1, 2・長尾雄介3

(1アース・キッズ株式会社発達障害療育研究所/スタジオそら 2桜美林大学 3マスセット株式会社)

## 目的

児童発達支援および放課後等デイサービスにおける療育のあり方は、2024年4月1日に障害福祉サービス等報酬改定が行われ、これまで以上に専門性の担保が求められている（小関他, 2024）。児童発達支援ガイドライン(厚生労働省, 2024)においては、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に基づく支援が求められている。その一方で、療育の効果を高めるためには、子どもの適応行動の獲得や問題行動の減少といった観点だけではなく、療育を受けることで楽しさや嬉しさといったポジティブな感情を獲得することに着目することも、持続的な療育の実施という観点で重要である。そこで本研究においては、5領域のうちの「運動・感覚」に焦点を当て、バランス感覚の向上をねらいとした療育を実施した際のポジティブ感情の喚起効果について検討を行う。

## 方法

児童発達支援および放課後等デイサービスに通う2歳から17歳の子どもの男児43名、女児14名、計57名（平均6.74歳、SD=2.85）が以下の用具を利用した。

### 「ロッキングボール・クリアー」



<製品について>

- ・対象年齢3歳～
- ・バランス感覚を養う
- ・揺らしたり回したりして遊ぶことができる

提供：(株)マスセット株式会社

### 「ウェイブバランス平均台」



<製品について>

- ・対象年齢2歳～
- ・身体のバランスをとる力を養う
- ・組み合わせる向きによって円形や直線形に並べることができる。
- ・滑り止め加工がされていて安全に遊べる

提供：(株)マスセット株式会社

これまでの療育経験および保護者からの情報提供に基づいて、対象となる子どもの特性について、以下の6つのカテゴリーに分類した。

- ・衝動性が高い
- ・全般的な理解が困難
- ・こだわりが強い
- ・気持ちのコントロールが苦手
- ・言語で感情を表現することが苦手
- ・その他

利用した子どもに、

「楽しかった」「おもしろかった」「気持ちよかった」について、それぞれ0-10の11段階評価で評定を求めた。あわせて、子どもを観察している支援者にも、同様の項目について客観的な評定を求めた。

倫理的配慮：本研究の手続きは、発達障害療育研究所研究倫理審査の承認を受けて実施した（承認番号：202401）。本研究で得られたデータは、すべて研究協力者の同意を得て収集され、匿名化の処理をしたうえで鍵付きの保管庫にて管理を行っている。

## 結果

対象となった子ども（57名）は以下に分類された。  
衝動性が高い…10名  
全般的な理解が困難…6名  
こだわりが強い…19名、  
気持ちのコントロールが苦手…5名  
言語で感情を表現することが苦手…10名  
その他…7名

「ロッキングボール・クリアー」に取り組んだ結果をTable1に、「ウェイブバランス平均台」に取り組んだ結果をTable2に示す。

Table1 ロッキングボール・クリアーに取り組んだ際の感情評定

	衝動性が高い (7区分)	全般的な理解が困難 (5区分)	こだわりが強い (10区分)	気持ちのコントロールが苦手 (3区分)	言語で感情を表現することが苦手 (10区分)	その他 (2区分)
楽しかった (子どもの評価)	10.00 (0.00)	10.00 (0.00)	9.57 (0.73)	8.00 (0.00)	9.83 (0.53)	7.00 (0.00)
おもしろかった (子どもの評価)	10.00 (0.00)	—	9.75 (0.43)	—	9.80 (0.60)	5.00 (0.00)
気持ちよかった (子どもの評価)	10.00 (0.00)	—	8.00 (0.00)	—	10.00 (0.00)	—
楽しかった (支援者の評価)	9.20 (4.37)	10.00 (0.00)	8.70 (1.62)	5.67 (3.30)	9.79 (0.56)	6.00 (0.00)
おもしろかった (支援者の評価)	9.00 (4.47)	8.60 (0.80)	7.90 (1.81)	5.67 (3.30)	9.64 (1.04)	6.00 (0.00)
気持ちよかった (支援者の評価)	6.33 (3.70)	7.00 (2.00)	5.50 (4.50)	1.00 (0.00)	8.50 (0.87)	6.00 (0.00)

Table2 ウェーブバランス平均台に取り組んだ際の感情評定

	衝動性が高い (9区分)	全般的な理解が困難 (16区分)	こだわりが強い (17区分)	気持ちのコントロールが苦手 (16区分)	言語で感情を表現することが苦手 (21区分)	その他 (9区分)
楽しかった (子どもの評価)	8.33 (2.36)	7.83 (1.57)	9.50 (0.96)	7.00 (1.41)	8.70 (1.79)	7.00 (0.00)
おもしろかった (子どもの評価)	9.00 (1.41)	—	8.63 (1.22)	10.00 (0.00)	8.60 (1.96)	—
気持ちよかった (子どもの評価)	7.25 (2.95)	8.67 (0.94)	8.80 (1.47)	6.50 (1.50)	6.50 (3.50)	—
楽しかった (支援者の評価)	6.67 (1.80)	6.69 (2.08)	7.49 (1.67)	6.38 (1.62)	7.21 (1.79)	6.00 (0.89)
おもしろかった (支援者の評価)	6.83 (1.77)	5.94 (1.14)	7.22 (1.36)	6.62 (1.21)	6.79 (1.99)	6.00 (0.71)
気持ちよかった (支援者の評価)	6.33 (2.87)	5.67 (2.36)	6.50 (2.46)	5.11 (1.79)	5.00 (2.36)	5.67 (0.94)

利用時の様子  
(支援者の記述から)

### ロッキングボール・クリアー

- ・とても気に入って、課題に取り組んだ際のご褒美として活用できた
- ・先生に揺らしたり回したりしてもらって楽しんでいた
- ・「海の中に行きたい」と表現した

### ウェイブバランス平均台

- ・足の裏の感覚を楽しんでいた  
(一方で、はじめは「痛い」と話す子どももいた)
- ・サーキットにしたり、他の遊びと合わせて積極的に取り組んだ
- ・自分から取り組み、平均台から落ちても再挑戦していた

## 考察

本研究の結果から、おおよそ特性にかかわらず、バランス感覚の向上を介した療育を実施することによって、子どもの「楽しい」「面白い」といったポジティブ感情を喚起させる効果が確認された。その一方で、「気持ちよさ」の感覚には差異が生じており、子どもの感覚の過敏さなども考慮する必要性が示唆された。本研究は、これまで行われてきた療育においても、ポジティブ感情などストレスマネジメントの観点を取り入れることの重要性を示した点で意義がある。

利益相反開示：発表に関連しマスセット株式会社およびアース・キッズ株式会社と利益相反関係にあり、本研究で使用した用具はマスセット株式会社から提供を受けた。